

第三期中期目標期間の終了時に見込まれる業務実績評価案の概要

1 項目別評価（案）

第三期中期目標期間（平成30年度～令和4年度）

評定	評語	中期目標期間見込		令和3年度(案)		令和2年度		令和元年度		平成30年度	
		項目数	割合	項目数	割合	項目数	割合	項目数	割合	項目数	割合
S	極めて良好である	2	10%	1	5%	2	10%	2	10%	0	0%
A	良好である	10	50%	12	60%	11	55%	8	40%	10	50%
B	概ね良好である	8	40%	7	35%	7	35%	10	50%	10	50%
C	やや不十分である	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
D	不十分であり、見直しが必要	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
項目数計		20	100%	20	100%	20	100%	20	100%	20	100%

2 業務実績評価（案）

(1) 全体評価

中期目標の達成に向けて、優れた業務の達成状況にある。

高く評価すべき事項

- ・ 三つの重点医療（血管病、高齢者がん、認知症）について、低侵襲な治療など高齢者の特性に合わせた医療を提供するとともに、急性期患者を積極的に受入れ
- ・ 病院と研究所を一体的に運営する法人の特長を生かした研究を推進し、研究成果を普及・還元
- ・ コロナ禍において機動的な経営判断や弾力的な予算執行を推進するとともに、公的医療機関として都の施策に貢献

改善・充実を求める事項

- ・ 地域における専門人材の育成 ・ 法人の自律性を発揮した効率的、効果的な業務推進 ・ 医業収支の改善

(2) 項目別の主な業務実績・評価

【病院部門】高齢者の特性に配慮した医療の確立・提供と普及

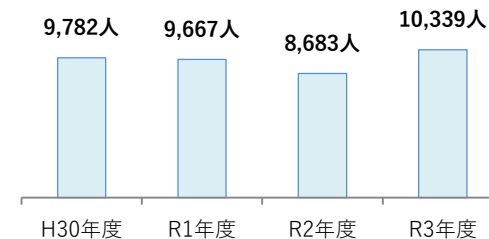
- 三つの重点医療において高度な技術を活用した鑑別診断や低侵襲な治療を提供
- 多職種連携によるチーム医療など、生活機能の維持・向上を目指した医療を提供
- 新型コロナウイルス感染症の流行下において、地域連携体制を確保し積極的に患者を受入れるとともに、宿泊療養施設へ看護師を派遣するなど、公的医療機関として都の施策に貢献

⇒ 高齢者の特性に合わせた医療の提供や、コロナ禍にあっても急性期患者を積極的に受入れたことを評価

【栄養サポートチームによる回診】



【救急患者受入数の推移】



【研究部門】高齢者の健康長寿と生活の質の向上を目指す研究

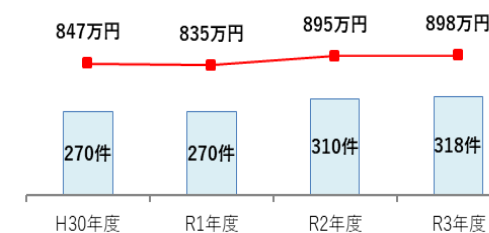
- 世界で初めて、膵臓がんの増殖・浸潤を抑えて老化を誘導するメカニズムを解明
- 令和2年度に認知症未来社会創造センター（IRIDE）及びフレイル予防センターを立ち上げ、認知症予防及び介護予防・フレイル予防の取組を推進
- 平成30年度に研究支援組織（HAIC）を立ち上げ研究基盤を強化した結果、外部資金獲得金額が過去最高額を更新

⇒ 病院と研究所を一体的に運営する法人の特長を生かした臨床研究を推進したことや、研究支援組織を立ち上げ研究基盤を強化し成果の還元につなげたことを評価

【認知症未来社会創造センター（IRIDE）開設記者発表】



【外部研究資金獲得金額及び件数】



* 金額：研究員一人あたりの獲得金額（都委託除く）
件数：法人の総獲得件数

(2) 項目別の主な業務実績・評価

【経営部門】人材育成・業務運営・財務・その他

- 医師や研究員の大学等への派遣、医学生等を対象とした高齢医学セミナーの開催、連携大学院等からの学生の受入れ等を通じて、次世代の高齢者医療・研究を担う人材の育成に貢献
 - インターネット予約サービスの開始や医師事務作業補助者の積極的な活用により、患者サービスの向上を図るとともに、業務の効率化を推進
 - 新たな施設基準の取得のほか、専門家の指導により適切な保険請求に向けた取組を強化するとともに、病床の一元管理等を通じて救急患者の積極的な受入れや新規入院患者を確保
 - 診療材料及び医薬品について、ベンチマークシステムを活用し費用の抑制に努めたほか、大型委託契約の見直し等により委託費のコスト管理を推進
 - 新型コロナウイルス感染症の流行下において、機動的な経営判断や弾力的な予算執行をより一層推進することで、病院と研究所の連携によるPCR検査体制を迅速に整備し、法人事業を継続
- ⇒ 地方独立行政法人の特性を活かした業務の改善・効率化の推進や、コロナ禍において、都や地域との連携により公的医療機関としての役割を果たしたことを高く評価

【研究所PCR検査の様子】



3 第三期中期目標期間の終了時に見込まれる業務実績評価案に関する高齢者医療・研究分科会の意見

(1) 総評としての意見

- ・ 『優れた業務の進捗状況』にあると認められる。

(2) 留意点（項目別評価に関する意見）

- ・ 「高齢者のための高度専門医療及び研究を行う」ことを目的として設立された法人として、超高齢社会において重点的に求められる疾患領域に的確に取り組んでいる。
- ・ 引き続き地域医療機関等との連携の推進に努めてほしい。
- ・ 経営基盤のより一層の強化に向け、引き続き医業収支の改善に努めて欲しい。

(3) 第四期中期目標期間の取組への要望

- ・ これまで培った技術・知見及び病院と研究所が一体化した法人である強みを生かし、健康寿命の延伸に寄与すること
- ・ 公的医療機関として、地域連携を一層推進するとともに、地域や次世代における質の高い専門人材を育成すること
- ・ 研究成果の情報発信や社会・都民への還元に向けた取組を一層推進すること
- ・ 自律的な法人運営の基礎となる経営基盤の確立を目指し、更なる収支改善に取り組むこと